

みくりやしやこふん
「御厨社古墳」

町指定（史跡）

所在地：大字上平 1581-2 所有者：個人 指定：昭和 56 年 7 月 9 日

この古墳は^{おのざわ}小野沢段丘の東北端にあり、御厨社の北西にある円墳で、石室の規模は千曲川水系における最大級のものです。墳丘は、^{ふんきゆう}長軸約 15m、短軸約 13m、の楕円形をしています。もとは円墳であったと思われます。高さ 4 m です。^{げんしつ}玄室の規模は長さ 8.2m、幅 2.3m、高さ 2.5m です。^{せんどう かたそで}羨道は片袖式で幅 1.3m、長さ 3 m で、石室の全長は 11.2m で、南西の方向に開口しています。

^{げんしつ そくへき}玄室の側壁は大きな平石を小口積に重ね上げ、上部は小石を持ち送っています。床面の幅 2.3m に対して、天井部では平均 1.4m となっています。^{おくへき}奥壁も側壁と同様で、天井石は 7 枚の大平石を横渡しに^{はり}して、玄室の境に梁を一本通しています。

既発掘で、その^{ふくそうひん}副葬品等の遺物はほとんど^{さんいつ}散逸してしまいましたが、その後、石室内の清掃によって採集されたものは^{へきぎよく まがたま}碧玉製勾玉 1、メノウ製勾玉 3、^{かつせき}滑石製勾玉 1、水晶製切子玉 1、^{じかん ときん}耳環（金鍍金） 1 です。

築造年代は 6 世紀後半と考えられます。

